

# “古代史の新しい解明”を目指す

古代史に疑問の残る方々には、解明のきっかけをつかむチャンスです。

2020年11月21日(土)午後1時30分開演

東京都品川区 きゅりあん イベント会場 CDE 面

定員110名 入場料¥2000.-

先着順 メールで申込み：氏名・〒住所・電話番号を記入して、  
このアドレスへ：[info@nihonkodaishi.net](mailto:info@nihonkodaishi.net)

## 1. 記紀神話を歴史として読む



丸地三郎(古代史研究家)

出雲の国譲りや神武東征など、古事記・日本書紀の“神話”は、津田左右吉氏に過剰に影響された歴史観によって、戦後、“歴史”から除外され、教科書からも消し去られた。しかし、考古学の発掘成果は、“神話”の实在を示している。歴史として読み直すと、神話には、ひそんだ事実とその発見の喜びがあります。では、どう読むのか。

講師プロフィール：日本古代史ネットワーク副会長、横浜市立大学卒(日本史専攻)、コンピュータ畑に職を得て、半導体や最先端技術の分野に従事。  
現在は、「古代を語る会」を主催し、講演活動中

## 2. 邪馬台国九州説の展望



河村哲夫(歴史作家)

- 1、卑弥呼の鏡
- 2、邪馬台国九州説の展望
- 3、邪馬台国九州説からみた狗奴国
- 4、日本の古代神話と邪馬台国

講師プロフィール：日本古代史ネットワーク副会長、九州大学法学部卒、ふくおかアジア文化塾代表、朝日カルチャーセンター講師、元『季刊邪馬台国』編集委員長、など 著作：『志は、天下～柳川藩最後の家老・立花吉岐～(全5巻)』『九州における景行天皇伝承』『神功皇后の謎を解く～伝承地探訪録～』など多数。RKBラジオ「古代の福岡を歩く」にレギュラー出演。

